

北区平和マップ



1 浮間橋の碑

浮間橋は、荒川放水路の工事で孤島のようにしまった浮間地区と赤羽北地区を結ぶため、昭和3年(1928)に陸軍近衛工兵大隊によって架けられました。現在の橋は、昭和60年(1985)に架けられたもので、橋の北詰めに建つ「浮間橋の碑」には、初代浮間橋建設の歴史が刻まれています。



2 軍用貨物引込線跡

赤羽の台地上には、軍事施設と赤羽貨物駅を結ぶ、専用の線路が敷かれていました。赤羽緑道公園は、その線路跡を公園として整備したもので、園内には、当時の様子を想像させる様々な工夫がみられます。



3 大東亜戦争犠牲者慰霊記念碑

旧神谷公園には、戦争で亡くなった方々の慰霊記念碑があります。この場所には、昭和20年(1945)3月から8月にかけて、神谷周辺で亡くなった三百数十名の方が仮埋葬されていました。昭和24年(1949)に東京都慰霊堂(墨田区横網)へ改めて埋葬されましたが、昭和50年(1975)7月に地元町内会の方々の手により慰霊碑が建てられました。



4 平和の森

平成11年(1999)に、世界平和を願う区民の祈りを込めて建設したものです。シンボルとなっている柿の木は、長崎に投下された原子爆弾の爆心地から、わずか900メートルの地点で生き残った柿の木の二世です。

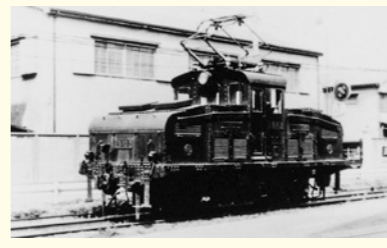


赤羽地区 王子地区 滝野川地区



9 須賀線跡

須賀線は、現在の豊島5丁目団地付近にあった工場と王子駅を結ぶ路線でした。今はもう線路はありませんが、王子4丁目交差点から延びる「紀州通り」は、この須賀線の跡です。



石井平八氏提供

10 軍用貨物線跨線橋跡

南橋下のちんちん山児童遊園には、軍の工場を結ぶ小型列車の軌道に設けられたトンネルの砕石が残されています。



11 平和祈念像

平和を願う区民のシンボルとして、平成2年(1990)7月に建てられました。この像の作者は北区初の名譽区民で彫刻家の北村西望氏です。長崎市平和公園にある「平和祈念像」の原型をもとに制作されています。



もっと知りたい ▶ 54 ページ

12 旧軍用貨物線の橋台

埼京線に架かる十条台橋から池袋方面を見ると、線路の左右にコンクリートの四角い橋台が残っています。かつてここには線路の上を陸軍のトラックが渡るための橋がありました。



戦災樹木

区内には、空襲の被害を受けた樹木が現在でも残っています。そうした樹木は戦災樹木とよばれ、戦争の記憶を今に伝えています。名主の滝公園、王子神社、上田端八幡神社の戦災樹木は、昭和20年(1945)4月13日夜から翌日にかけての空襲で被害を受けたものです。



①名主の滝公園 ケヤキ ②王子神社 イチョウ ③上田端八幡神社 イチョウ

場所	樹種	所在地
A	名主の滝公園 ケヤキ・スダジイ	岸町1-15-25
B	王子神社 イチョウ	王子本町1-1-12
C	上田端八幡神社 イチョウ・ケヤキ	田端4-18-1

掲載の地図は、デザインの都合により省略している部分があります。

5 防空壕の跡

北区では、戦時中、多くの防空壕が造られました。戦後ほとんどが埋め戻されましたが、東京北医療センターの南側斜面のものは保存され、赤羽台桜並木公園の一部になっています。



もっと知りたい ▶ 28 ページ

6 香取神社

赤羽一帯は昭和20年(1945)8月10日の空襲で被害を受けました。香取神社の境内には爆弾の破片の痕や吹き飛ばされた石碑などが残っています。



もっと知りたい ▶ 30 ページ

7 陸軍稲付射場跡

明治38年(1905)、現在の梅木小学校敷地付近一帯に、東京砲兵工廠(後の陸軍造兵廠火工廠)の射撃場が設けられ、火薬の爆破実験、鉄砲の発射実験などが行われていました。

現在、西が丘2丁目の道沿いに残る壁は、かつて、射撃場を囲んでいた外壁の一部といわれています。



年 組
氏 名

8 陸軍兵器補給廠跡

現在、ハイパフォーマンススポーツセンターとなっている一帯には、兵器の購入や保管、修理、支給などを行う陸軍兵器補給廠が置かれていました。

建物などは、すでに取り壊されていますが、公務員宿舎西が丘住宅先広場には当時使用されていた赤レンガが利用されています。

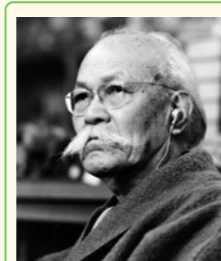


もっと知りたい ▶ 53 ページ

13 平和の女神像

戦後、日本と中国の国交が回復したことをきっかけに、人々の平和と幸福を願って、昭和49年(1974)5月に区民の協力のもと、建てられた女神像です。

作者は、平和祈念像①と同じく、北村西望氏です。



北村西望氏

©写真 千葉浩志



14 豊島ドック跡

豊島ドックは、旧東京第二陸軍造兵廠王子工場(現・王子6丁目付近)から石神井川を経て隅田川へ通じていた物資輸送用の運河のことです。

現在では、埋め立てられて豊島公園になっていますが、敷地を掘り返せば、今でもドックを形作っていた石組みが確認できるといわれています。



笹目孝蔵氏提供

15・16・17 旧東京第一陸軍造兵廠

明治38年(1905)、小石川にあった東京砲兵工廠銃包製造所が十条(現・十条台1丁目)で、銃に使う弾薬や火薬類の製造を始めました。その後、昭和15年(1940)に東京第一陸軍造兵廠に組織が変わります。

周辺には製造所の一部が残っており、変圧所(254号棟)の一部⑩や弾丸の製造工場(275号棟)⑪、工場を囲んでいた外壁の一部⑫などは現在でも見ることができます。
※()内の号棟番号は戦後に使われた通称



もっと知りたい ▶ 46 ページ

18 旧東京第一陸軍造兵廠本部事務所

中央公園文化センターの建物は、もともと、昭和5年(1930)4月に、十条台一帯に広がっていた兵器工場である陸軍造兵廠火工廠十条兵器製造所(後の東京第一陸軍造兵廠)の本部事務所として建てられました。終戦により、日本軍が使っていた土地や建物は、アメリカ軍の施設として使用されることになり、昭和46年(1971)に日本へ返還されるまで、さまざまな目的で使用されました。現在では、区民の生涯学習の場として、新たな歴史を刻んでいます。



昭和初期のようす(上)
戦後アメリカ軍が使用していた時期のようす(右)



もっと知りたい
▶ 45 ページ

19 憲兵の詰所

旧東京第一陸軍造兵廠滝野川工場(現・滝野川3丁目付近)の入口付近にあった憲兵の詰所。憲兵とは、陸軍の警察官のことで、詰所から人や物資の動きが監視されていました。



20・21・22・23・24 区内に残る軍用地の標石

かつて、北区には多くの軍事施設がありました。その面積を合計すると区の面積の約10%にもあたり、23区で最も高い割合でした。軍事施設の敷地を示す軍用地の標石は、現在でも区内の色々な場所に残っています。



20 「陸軍用地」西が丘2-21 先梅木小学校正門脇



21 「陸軍用地」王子本町3-2 都営王子本町三丁目アパート南側擁壁付近



22 「陸軍用地」滝野川2-32 先



23 「陸軍用地」滝野川3-53 滝野川三丁目公園



24 「海軍用地」西ヶ原4-42 付近

西ヶ原みんなの公園には、海軍の下瀬火薬製造所がありました。西ヶ原4-40から42にかけての道沿いには「海軍用地」②の標石のほかにも、いくつかの標石が残っています。

もっと知りたい
▶ 53 ページ

25 四本木稲荷神社

この稲荷神社は、旧東京第一陸軍造兵廠滝野川工場の構内にあり、工場ができる前からあった神社を改修し、十条の工場内にあった四本木稲荷神社(現在の中央公園)の神様を分けて祀ったものと伝えられています。鑄物の天水桶などは、十条の稲荷神社から移設されたものです。



赤羽地区

王子地区

滝野川地区